

角界引退 故郷で再出発

限界感じ 11月に引退

福智町でただ一人の郷土力士として、故郷を離れ11年間活動してきた藤本悠介さん（福智町神崎出身）。「限界」の2文字が頭をよぎったのは、平成26年の7月場所（名古屋）。9月場所（東京）で引退の決意が固まったという。最後と決めた11月場所（福岡）では、11年間の集大成として悔いが残らないよう全力で真つ向勝負に臨んだ。その結果、最後の取り組みで白星を勝ち取り、有終の美を飾った。

涙の断髪式

平成26年11月23日、福岡市で断髪式が行われ、全国から100人以上のファンが駆けつけた。断髪は関係者、家族と続き、最後の止めばさみを入れたのは師匠・阿武松親方。大銀杏を落とした藤本さんは、「皆さんから支えていただいたこの11年は、私にとって財産であり誇りです。ありがた

うございました」と涙ながらにあいさつし、式を締めくくった。

心に携わる仕事をしたい

「藤本は人を平等に見ることができ、きれいな心の持ち主です」。阿武松親方は断髪式でこうコメントした。同部屋の前力士たちも「後輩が悩んでいるときは力になってくれる、すごく面倒見が

相撲に限らずスポーツで故郷に恩返ししたい

が良い先輩でした」と語る。しかし藤本さん自身は、インタビューでそんな自分の優しさについて「勝負師には向いていなかった」と振り返る。「けれども、自分は心で相撲を取ってきました。相撲だけでなく、スポーツ全般に言えることですが、人は心を鍛えて大きくしていくか、いと強くなれないと思います」と、



何より「心」を重んじる藤本さん。これからの人生では「人の心に喜びと感動を与えられるような仕事をしたい」と将来の展望を語った。

自立し、故郷で恩を返す

「相撲だけの人生だったので、今は右も左も分からない状態。社会人として自分の足で歩むことが応援してくれた皆さんへの恩返しに

なると思うので、今はしっかり社会勉強します」と語る藤本さん。これからは故郷を土俵に、新しい場所での真つ向勝負に取り組んでいく。そして自立した暁には、福智町で相撲に限らずスポーツ全般に携わっていきたいと言う。プロの世界を経験してきた元力士ならではの活躍に期待がかかる。藤本さんの歩みはいつでも「待ったなし」だ。



↑父・壽雄さんによる断髪。藤本さんの目頭には、11年間支えてくれた人たちへの感謝の思いが涙となって込み上げていた。



藤本 悠介
(ふじもとゆうすけ)

昭和61年6月9日生まれ。16歳で千葉県の阿武松部屋に入門し、「藤本」の四股名で活躍する。西幕下3枚目まで番付記録を更新したが、平成26年の11月場所を最後に引退。